

帰国報告書・レポートの書き方 サンプル(一部抜粋)

9. 受講した授業内容について

※ 単位認定希望 → **有** 【成績証明書・修了証明書(コピー可)、シラバス等提出のこと】

語学プログラムを受講の場合

受講コース・科目名など Academic Intensive English Language Program (Level 6)
期間 2015年 9月 7日 ~ 2015年 11月 13日
総受講時間数230.....時間 ※コースの各授業時間や内容は以下で報告すること
◆受講時間内訳〔下線に授業名(Listening・Writing など)、分、回数、週数などを記入〕
①授業名 <u>Grammar/Writing</u> 授業1回 120分 × 5回/週 × 10週間 = 総授業時間 100時間
②授業名 <u>Reading/Discussion</u> 授業1回 60分 × 5回/週 × 10週間 = 総授業時間 50時間
③授業名 <u>Listening/Speaking/Pronunciation</u> 授業1回 120分 × 2回/週 × 10週間 = 総授業時間 40時間
④授業名 <u>Street Talk</u> 授業1回 120分 × 2回/週 × 10週間 = 総授業時間 40時間
※4つめ以降の授業は適宜追加して記入
◆授業内容・到達度 (各授業について報告)
冬学期も秋学期と同じコースだったので内容は重点を置いているのはやはりTOEFL対策ということに変わりはありませんでした。ただ、レベルがひとつ上がり中の上になり、宿題がすべてのレベルのなかで最も多いようで、その量は半端ではなかったです。さらにエッセイの宿題も加わり、今までは読む側だった立場から書く側の立場になり、これは今まで日本でも学んだことのないことだったのでとても興味深かったです。

受講コース・科目名など Cours intensifs de francais general Niveau2
期間 2015年 8月 31日 ~ 2015年 12月 11日
総受講時間数270.....時間 ※コースの各授業時間や内容は以下で報告すること
◆受講時間内訳〔下線に授業名(Listening・Writing など)、分、回数、週数などを記入〕
①授業名 <u>cours intensifs du lundi au jeudi</u> 授業1回 225分 × 4回/週 × 15週間 = 総授業時間 225時間
②授業名 <u>cours intensifs vendredi</u> 授業1回 180分 × 1回/週 × 15週間 = 総授業時間 45時間
◆授業内容・到達度 (各授業について報告)
11月から Niveau も1つ上がり先生も変わりました。Niveau1のときより全体的に内容が難しくなり、フランスの教育制度や雇用問題、フランスの食文化や健康についてのテキストを読み、みんなで話し意見の交換をしました。 Grammaire では接続法や条件法など日本では習っていない範囲のことを学び理解するのに必死でした。リスニングは少しテープの話すスピードが速くなって何回も何回も聞いて耳を馴らしていきました。先生の話すスピードも上がり内容も難しくなってきました Orale の練習として、クラスでグループに分かれて自分たちで劇を作り、セリフを暗記しみんなの前で演じるということをしました。また自分の国について、パワーポイントを用いて15分間プレゼンをするという課題もありました。日本語でプレゼンをするのも難しいのにフランス語で、しかも15分間話し続けるという課題にとっても苦戦しました。パワーポイントや発表のための原稿をフランス語で作成し、しっかり準備して授業中に発表しました。普段の授業中、ほかの国の生徒は愛国心が強いなあと感じていましたが、その発表でみんな15分間という基準の時間を大幅に超え40分以上自分の国についてのプレゼンをしていて日本との違いを感じた瞬間でした。 授業内容は少し難しくはなったが、フランスの生活にもだいぶ慣れ、クラスの人々と話すことも増え、遊びに行ったりご飯を食べにいたりすると、フランスでの生活が充実してきました。

※ 受講時間は、休憩時間・休暇期間を省いて記入。

大学講義科目を受講の場合

受講科目名 Introduction to Mass Communication
期間 2015年 8月 31日 ~ 2015年 12月 11日
総受講時間数 37.5時間 ※コースの各授業時間や内容は以下で報告すること
◆受講時間内訳〔下線に授業名(Listening・Writingなど)、分、回数、週数などを記入〕 ①授業名 <u>Introduction to Mass Communication</u> 授業 1回 75分×2回/週× 15週間 =総授業時間 37.5時間
◆授業内容・到達度 (各授業について報告) 数あるメディアをあらゆる角度から学び、それと同時に身の回りにあるメディアを見つめ、考えることによって、自身のメディアリテラシーをも発達させることができました。 課題の中でメディアなしで生活し、それについてどう感じたかをレポートにまとめるという実践的な取り組みもあり、とても面白かったです。授業の形式としては、教授のパワーポイントで行われるのですが、授業のスピードがとても速く、パワーポイントの配布やオンラインでの掲載も一切ないので、授業のノートの取り方に工夫がいろいろあり、毎回授業後に教授に授業で分からなかったことの質問は欠かせませんでした。とても厳しい授業で、テストもなかなか思うように行くことも少なかったです。日本にいる時からなんらかの形で触れていたアメリカのメディアを実際にアメリカで勉強することができて毎回とても楽しく勉強することができました。

※ 大学の講義時間数は語学学校に比べ、受講時間数がかなり少ない。

万が一決められた自習時間が必修とされていた場合、それを証明できる資料が発行された場合に限り、自習時間を含めた時間を申告してください。授業時間内訳欄に自習時間とわかるよう授業名を分けて記載すること。

受講コース・科目名など Linguistics201	【科目読替え希望の場合】
期間 2015年 9月 7日 ~ 2015年 12月 4日	
総受講時間数 32.5時間	※コースの各授業時間や内容は以下で報告すること
◆受講時間内訳〔下線に授業名(Listening・Writingなど)、分、回数、週数などを記入〕 ①授業名 <u>introduction of the field of Linguistics</u> 授業 1回 75分×2回/週×13週間=総授業時間 32.5時間	
◆授業内容・到達度 (各授業について報告) 言語の構成を5つの分野(音声、音韻、語形、統語、意味)から分析しました。分析する言語は主に英語で、発音記号や構成のルールなどを学び、単語をどう発音するのか、なぜこういう綴りになるのかななどの疑問について考えました。英語の他にも、ラテン語やイヌイット語など世界各地の言語を取り扱いました。言葉を音に分解し、構成の規則を探してパターン分けしたりしました。この授業のテスト形式は記述式だったので、理習った記号や規則を理解するだけでなく、それらを実際を使って表記できるようにならなければいけなかったのが大変でした。テストの他にもアサイメントが分野別に出され、全部で4つありました。この授業で習った基礎の知識は、後期に受講した Linguistics203 でも必要でした。	
*2015年度後期・言語習得論・二葉晃文教授・金3に読替認定希望	

※ 科目読替えを希望する場合、龍谷大学の開講時期、読替科目、教員名を記入する。
授業中提出した最終レポートや課題もあわせて提出。